

に結婚を申込まんとして、却って横取りせられたるマイルス・スタンディッシュの滑稽を演ぜんと欲するものなり。何人も知る如く、佳人ブリシラと天下晴れての夫婦となりしは、ジョンにして、マイルスにてはあらざりき。青年にして、己が成功の問題を解決せんが爲めに、他の門牆に走るものあらば、其は猶ほ盜賊に鍵を渡すと一般なり。蓋し其の人必ず、漁父の利を獲べければなり。

僥倖は、棚から牡丹餅の落下を待つ。電勉努力は、慧眼と強固なる意志とを以て何物かを拈出す。僥倖は、寢床に横はりて、郵便配達夫の道に遺物あるを來り報ぜんを望む。電勉努力は、午前六時に起き、多忙なる筆又は喧しき槌を以て、成功の土臺を造る。僥倖は、嘆聲を發し、電勉努力は、凱歌を奏す。僥倖は、神寵を頼み、電勉努力は、品性を力とす。僥倖は、失脚して、逆境に沈淪し、電勉努力は、驀進して、獨立に到る。

茲に、剛毅勤勉なる一青年に關する一場の物語あり。彼、一箇月僅かに十八弗の俸給を以て、ペンシルヴァニアの石油地方に於て、牛追を業とせしが、其の伯母の死するに及んで、遺産二百萬弗と鑛山借區税日收二千弗とを相續せり。順

逆の境一朝に變じて、彼は俄分限となる。是れ實に棚から牡丹餅なり。然れども彼は其の巨萬の富を運用する方法を知らざりしかば、俄に旅行を思ひ立ちぬ。されど彼は生れて未だ足一步も郷關を出でず、籠鳥の雲を慕ふが如きものありければ、數名の青年を隨行員として旅程に上れり。

オハイオ州、コロンブスに到着するや、運賃の事より、借馬車の御者と口論せしが、遂に金力に訴へて、其の馬車を購ひ、御者を傭うて旅館に着し、一階全部を借切りて、酒池肉林頗る豪華を極めたり。

翌日數頭の馬を購ひ、御者を雇ひて、市中を遊覽し、名所舊跡を訪ふこと連日。遂に馬車と馬とを御者に與へ、傲然として此の地を去れり。斯くの如くして、彼は市より市に巡遊し、到る處豪華を以て、靴磨き、旅館の下婢、給仕人等を張目仰瞻せしめたり。彼や一日二千弗の収入の用途に苦しむもの、五百弗の宿泊料の如きは固より眼中にあらざるなり。然れども、驕る平家は久しからず、斯くの如き奢侈の生活は、俄然として終局を告ぐるに至りぬ。財産の傾けるに非ず、行樂の地なきにあらず、榮華を極むること二年にして、突然、一種の負債……自然の



負債の爲めに、嚴肅なる法律執行官の逮捕する所となれり。賄賂も効能なく保釋願も受理せられず、二百萬弗の身代も彼の冤を雪ぐに由なく、彼は靦面なる因果應報の運命——死——を甘受せざるを得ざるなり。是に於て、一箇月十八弗の賃銀を得て牛を追ひたる昔時を回想せば、蓋し無量の感慨なくんばあらざる可し。

一大實業會社に入るを目的として、唯一本の箒と一片歌々の心とを以て出立し、他人の籬下に寄ることなく、獨力にて自家の天地を開拓し、會社の社員となり、老人の秘藏せる佳人と結婚すべき少年那邊に在りや。功名の念勃々として、慈母の膝下を辭する青年の前途果して如何。煙草は奢侈品なりとして、之を拒絶し、芝居は最後の喇叭の響く場合に出入す可き場所にあらずとして、觀劇を謝絶するの意氣あるもの、天下果して幾人がある。

成功を得るの方法如何。幾多の青年が渾身の血を沸かし、造次にも顛沛にも、其の頭腦を苦しむる此の燃ゆるが如き空想を實現するの法如何。蓬萊は咫尺の間であり、然れども、之を捕へんとすれば、雲の如く、影の如く、忽然として見え

ず、吾人は蓬萊と青年との中間に横はる困難障礙の幾何なるやを知らざるなり。

青年をして傳記に歸らしめよ。偉人及び善人の傳は、皆須要なる警告と有益なる希望とに富む。世に高名なる人傑は、概ね皆先蹤の外に一頭地を抜かんとす。宿願を、古人の傳記通讀の際に喚起せり。サミュエル・ロミリーは、佛國の政治家ダゲソウの傳より被むれる感化に關して語りて曰く、「そは、予の勇氣と功名心とを刺戟すること著しく、予の空想に光榮ある新生面を開けり。」と。ロバート・ホール傳が、今日に至るまで幾多の青年を感奮せしむることは、恰も喇叭の如く、ネルソンの勳業に心酔する壯士豈に尠なからんや。ルーテルは、ヨハネ・フツスの生涯によりて宗教改革者と爲れり。浩瀚なる傳記の頁中に、卿等は、如何にして他人が、忍耐して、功を爲し、名を遂げしか、如何にして、剛毅なる精神が、懷疑、危険及び艱苦を凌ぎて、目標に達する道路を開拓せしか、如何にして、薄志弱行の徒が、人事に失脚し去るの運命に遭遇せしか、歴々として、其の成敗の跡を指すを得ん。



杖を以て始むる者は、杖を以て終るを常とす。内部よりの助力は、其の人を強くすれども、外界よりの助力は、其の人を弱くす。卿等をして、水泳術に達せしむるものは、コルクや板や救命器の使用にあらずして、勇躍して水中に入り、カシユース及びシーザーの如く、所謂「太き筋肉」を以て、水を打つことなり。嗚呼、獨立獨行なる哉。

自ら斷ぜずして他に謀る人は、遂に道德的懦弱者及び智力的侏儒と爲る。斯かる輩は、内に「我」を有せず、「我」を信仰せずして、却つて他人の門牆に走り、叩頭平身して、彼等の「我」を貸與せんことを嘆願す。

競走に勝つものは、必ずしも兎にあらず。堅忍努力、刻苦勵精、斷乎たる決行、不變の目的等は、成功の要素なり。

ブルーム卿の如き多角的天才は、古來多く見ざる所なり。彼は適く所として可ならざるはなく、演説家として倫を絶し、法學者として成功し、文學者として一方の重鎮たりき。彼は法學の最高學位を得、英國尙書兼樞密顧問官となれり。然れども、其の異數の昇進が、其の後繼者の一人たるカメル卿の如く、社會一

般の同情を得たりしや否やは疑問に屬す。蓋し兩者其の歩武を齊しうせず。カメル卿の成功は、勤勉と忍耐との餘徳にして、ブルーム卿の成功は、主として、其の天稟の才氣に因るが故なり。世に稱すカメル卿は、微賤より起りて位人臣を極む。彼は困難を排除して自家の天地を開拓したるなりと、彼は「勤勉努力」を以て名を成しブルーム卿は、天才を以て功を立つ。二者迥然として趣を異にす。是に依つて之を観るに、世界が眞に尊敬を拂ふものは、各種の困難、障、碍、を排除し、以て己が才器の短なる所を補ふ所の「勤勉努力」なり。換言すれば、沮喪せざる精力なり。

由來天才なる語は、動もすれば誤解を生ず。サア、ジョシュア、レイノールツは、之に定義を下して、「目的に就いて偶然決定せる強固なる意志の運用に他ならざ」と言へり。氏又曰く、「何物も「勤勉努力」に敵し難く、是れ無くんば何物も遂げ難し」と。

ナポレオンは、プリン在學中、書信を其の母に寄せ、胸中に磅礴せる霸氣の爲めに氣焰を吐きて曰く、「劍を腰にし、ホーマーを懷にし、以て世界を貫き、我が道



路を切開きたき希望に御座候」と

常に突飛なる成功を期待せる青年、即ち己の地位境遇に於て成功し難しと思惟せる青年は、一度グレース・ダリングの傳を讀まば、翻然として大悟する所あらん。孤島の燈臺、誰か之を以て單調なる閑地ならずとせんや、又誰か此處に老年の父母と歲月を送れる少女に功名の機會ありと豫期し得んや。然るに名譽と財産とを目的として、都の空に志したる彼女の兄弟姉妹は、杳として聞えざるに、彼女は女王よりも有名となれり。

少女グレースは、倫敦に行きて貴族を見るの必要なかりき。貴族等却つて千里を遠しとせずして、孤島に彼女を訪へり。少女は坐ながらにして王侯の羨む名譽を博しぬ。而してグレース・ダリングの名は、歴史と共に千載不朽なり。彼女は千里の外に、夢の如き名譽と富貴とを期待しつゝ、彷徨することなく、其の本分のために、最上を盡したるなり。

博士カリー氏曰く、「予を以て刻苦勵精以外に何等かの能ありとする者あらば、予を買ひ被れるなり。予は刻苦するに堪ふ、予は如何なる難事にも堪ふ可し、

成 功 論

徹頭徹尾、予は此の主義を執れり」と。

學校に於ても、一家族に於ても、往々にして二様の青年あり。一は神童と呼ばれ、他は愚鈍と稱せらる。然るに、前者が十で神童、十五で才子、二十歳過ぐれば平凡の人の轍を踏むもの比々皆然らざるはなきに、後者は、牛歩的なれども、確實なる道を黽勉力行して、人生の青山、換言すれば、功名の絶頂に達するの奇現象を呈することあり。是れ皆自ら爲す所なり。人は、各自の運命の建設者なり。黽勉努力には天才の企及し得ざるものあり。

學校時代の秀才が、卒業後聞ゆる所なく、龍頭蛇尾の譏を招くは、一見奇なるが如しと雖も、彼等が人生の競争場裡に劣敗するは、彼等が黽勉努力の必要を感じざるが故にして、何等の取柄なき魯鈍少年が晩成するは、黽勉努力の自然的结果なり。

グラントが同窓生の一人慨然として曰く、「髻髪のグラントに今日の成功を期待したるものあらんや。彼は學力に於て中等にして、好んでナポレオン傳を讀みたり。而して彼が學科を怠るは、ナポレオン傳の爲す業なりとて、教師は怒

獨 立 行



ツて之を没收し、火中に投じたり」と。

風采の平凡なる、グラント將軍の如き人は、俗間の矚目する所とならざるを常とす。滔々たる俗物の眼に映ずる彼は無能なりき、イリノイスの元老院議員リチャード・エイツ曰く、「彼の天才は虚飾的にもあらず、又戯曲的にもあらず、然れども大成の天才なり。彼事を爲せば、即ち成る。事業より分離せば、前の如く彼は平凡なる人なり」と。

家庭に於ける少年として、グラントは、大膽不敵、物覺えの悪しき事、及び剛情以外に、何等の特色あざりき。

ウエスト・ポイント在學中、彼は尋常の成績にして、昇進の望み極めて少なき。墨西哥戦争の時、彼は大尉として、尋常の技能を顯はしたるに過ぎざりき。一家の活計を維持するが爲めに、グラントは、セント・ルイ附近の田園に於て、鶏鳴に起き星を戴いて歸るの辛苦を経たり。實務家としては、勿論不成功なりき。然れども、南北戦争起るに及んで、彼は初めて驥足を展ばすの地を得、天下に知己なきを怨みず、從容として、其の爲すべき事を爲せり。斯くて彼は漸次累進

成 功 論

して、遂に國家の運命を掌中に握るに至りぬ。彼は戦争に有終の美を與へ、選ばれて大統領となり、又再選せられ、所謂舊世界の帝王連より、米國式英雄の好標本を以て目せられたり。

然れども、看らゆる光榮を一身に集めたるグラント將軍は、常識の人なり。其の頭腦は平凡、其の情や至純にして、剛毅力行の氣に富み、意志剛健なり。彼は爲すべき方法を知らざれば、決して事に着手せず、而して一たび之に當らば、爲し遂げずんば斃るゝとも已まず。

二十一歳の時、三十九番の席順を以てウエスト・ポイントを卒業したる此の偉人は、遂に級中第二席の優等生たりしマククリランを凌駕し、リートを降伏せしめたり。

予曾てバルボールド夫人の小説を讀む。夏期休暇の旅行より歸れるワイズマン君は、次の如き書簡を持參せる新入學生を得たり。

肅啓、此の手紙持參人は、サミュエルと申す豚兒に有之、貴下の御指導を仰ぎて、相當の人間に致し度と存じ、推參致させ候。本人は當年十一歳に候

獨 立 行



へども、讀書の外には何事も爲し得ず、誠に御恥かしき鈍物に御座候。今日迄小生は種々の手段を講じて、普通の學科を授け候へども、毫も効果を見ず、果して何かの長所あらば、未だ現はれざるものかと愚考致候。兎に角、貴下の御經驗と御熟練とに信頼致候へば、何卒微衷御推察の上、本人は如何なる方面に適するや、從つて又今後如何なる方面の教育を施すべきやを御試験被下度御依頼仕候、草々。

月 日

ハンフリー・アクレス

ワイズマン殿

ワイズマン之を一讀し、助手を顧みて曰く、『妙な奴がやつて來た。何んにも出來ないといふ代物だが、アクレス君は、屹と令息に何處か見込があるのだらう。』サミュエル・アクレスは宛がら、鞭打たるゝを豫期するが如く、伏目勝に鞠躬如として佇立せり。ワイズマンは、温言問うて曰く、『此方へお出て、私の前へお立ちなさい、何も恐るゝことはない。お前は幾歳ですか。』

『五月で十一歳になりました。』

成 功 論

『年齢よりは、なか／＼身體は大きい。屹と遊戯は好きだらう。』

『はい、好きです。』

『石彈は上手かい。』

『まあ、上手な方です。』

『獨樂や輪も廻せるだらう。』

『はい、出來ます。』

『字は書けますか。』

『少しは習ひましたが、廢止しました。』

『何故廢止た。』

『出來ないから……』

『否、出來ぬ事はない、何うして他の子供には出來ると思ひます？ お前よりも指が多い故だらうか。』

『はい。』

『石彈のやうに、筆を持つことがお前に出來ないのか。』サミュエルは辭塞りて

獨 立 行



默然たり。ワイズマン重ねて問うて曰く、  
「手を出してお見せなさい。是なら他の生徒のやうに字の書けないこと  
はない。本は讀めるだらう。」

「はい。」

「あの教室の扉に何と書いてあるか讀んで御覽なさい。」サミュエル稍々躊躇  
せしが、やがて

「苟くも人之を爲す、我豈に爲し能はざるの理あらんや」と讀めり。

「如何して、お前は讀むことを習ふた？ 骨が折れたであらう。」

「はい。」

「もつと骨を折れば、もつと善く讀めるやうになる。算術は出來ますか。」

「加法を習ひました。が、其れ限りて止めました。」

「何故止めた？」

「出來なかつたからです。」

「二仙で、石彈は幾何買へます？」

成 功 驗

「十二個。」

「二仙では幾何？」

「六個。」

「それでは、四仙では幾何？」

「二十四個。」

「お前が毎日二仙づゝ貰ふとすれば、一週間では幾仙になります？」

「十四仙です。」

「其中、四仙費つたら、幾仙残ります？」

サミュエル、暫時黙考せる後、答へて曰く「十仙です。」

「善し、お前は算術の四則、即ち加減乗除が出来る。お前の適するものが分明ッ

た。私はお前に出来るものだけを教へてあげるから、お前は行らねばならぬ。本

校では『出來ませぬ』といふ事は、固く禁じられてあります。」

サミュエルは、試験に及第せるを知り、欣然として退場し、心竊かに自己の實  
力を確信せり。翌日より彼は、學び能ふとの自信を以て、勉勵せり。『予は試む可し』

獨 立 獨 行



てふ精神全校に満てるが故に、サミュエルも自ら之が爲めに鼓舞せられ、勵精刻苦せしかば、進歩極めて著しく、ワイズマンは書を裁してハンフリーアクリスに報じて曰く、

敬啓、小生は今日を以て令息に就きて御報知するの適當なる時機なりと存候。御待ち兼ねの儀と存候へども、小生は平素より速断を好まず候。御書面によれば、令息の長所不明との趣き拜承仕り候。長所との仰せが、果して勉強或は教育に待つこと少なくして、令息を卓絶せしむべき、或る方面の傾向との意味に候はゞ、小生は今日に至るまで斯くの如き少年に接すること僅に二三にして、失禮ながら、令息は確かに此の數に漏るゝものと申上ぐ可く候。併し、相當の教育を受くれば、尋常人の爲し能ふ可き、或る事物を爲すの能力てふ意味に候はゞ、小生は、令息は特に劣るものにあらずと断言するを憚らず候。而して、商業又或る實用的職業に就かしむる御方針ならば、小生は前途の有望を疑ふの理由を知らず候。人生に最も價值あるものは、凡て努力に依りて得らる可しとは、小生の持論に御座候。令息は、

成 功 論

其の適所を發見せん、との無益なる期待の爲め、既に、可惜多くの時間を費され候。少年は獨樂や石礮以外に己の實力を確信し難きものなりと断言するも決して誣言にては無之候。令息が小生の指導の下に在る間、小生は充分意を用ひて、斯くの如く無益に時間を空費せしめず、適當なりと信ずる事を教授致す可く候間、御安心相成度候。草々。

月 日

ソロン・ワイズマン

ハンフリーアクリス殿

相當の時期に及んで、サミュエルの爲めに、其の性質と才能とに適當なる職業選擇せられぬ、而して彼は一向専心之を勉めしかば、遂に其の方面に於ける重要な人物となり、天才に待つことなくして、成功の域に進めり。

世間一般の青年は以爲らく、異常の成功は異常の天才に待つと。誣妄是れより甚しきはなし。薄志弱行の徒より見れば、夫れ或は歴史上に自家の地歩を作り、千載の下、尚ほ吾人をして瞻仰せしむる偉人の、尋常なる才智の人なる事を洞察し難からん。

獨 立 行



然れども、世界の經驗は欺くを得ず。請ふ、尋常一般の人よ、憂ふる勿れ。成功せる凡人の實例は、日々吾人の眼に見、耳に聞く所なり。

社會の需用は、異常の天才なき幾千萬の人をして名を成さしめたり。異常の功を爲さしむる者は、瑣々たる平常の習慣なり。高材逸足の士にして、意外に功益を與へざる者、尠ならず。而已ならず、物質的の成功は、主として、匪勉に因るものにして、才器の拔群に因ること稀なり。凡人と雖も、匪勉努力の功に依りて、天才以上の成功を遂げ、異常の感化を社會に及ぼすことあり。驚く可き多藝多能の人あり。然れども、其の裏面には、薄弱といへる缺點を有す。一藝一能の士は、靈の帝國を分割せんとする敵國なく、又其の精力を攪亂せんとする迷ひなきが故に、専心努力に於て最も富むものなり。

リンコン、グラント、或はサムナーたるべき能力を有せざるが故に、自暴自棄する青年は、愚なりと謂ふ可し。唐辛子の種子は、唐辛子と爲り、林檎の種子は、林檎と爲り、葡萄の種子は、葡萄と爲り、麥の種子は、麥と爲り、亭々たる榿樹、將た蒼々たる松樹と爲り、難きが故に、決して自暴自棄することなし。個々の人は、個々

の種にして、他の如何なる樹木となり、如何なる果實を結ぶかを自ら知らざるなり。然れども、其の本分は、日光に浴し、雨露に潤ほひ、以て其の發芽力を擴充して、葉と爲り、纖維と爲り、花と爲り、實と爲ることなり。種子の種類如何は、毫も顧慮するの要なく、其の可能性を發展すべき日光及び雨露を忌避するを不可とするのみ。

一莖の蓮花は、數百尺の高さに天を摩するのカリフォルニア松と齊しく、立派なる森羅萬象の一なり。青年に向つて、彼が所期の遂げ難きを豫言するは、愚なり。又不親切なり。猶ほ唐辛子の種子に、榿の可能性なきを教ふるが如し。青年は、決して其の生涯の核中に定められたる制限を超越すること能はざれども、其の生涯の萎縮、偏頗及び不熟を豫防すること難からず。

由來、學校及び教師の不足も、書籍及び友人の缺乏も、賤しき素性及び職業も、貧窮も、不健康も、聾も、盲も、餓も、寒さも、疲勞も、懸念も、煩悶も、氣骨ある士の自修獨學を妨ぐることは、能はざりき。抑も公等が學ばんと欲して、能はざるものとは、何ぞ、習字なりや、借問す、言語學者マリーは、岩高關の莖の一端を燒きて之を尖



らし、以てペンに代へ、廢物の廣告札を習字帳として學びたるにあらずや。英文典を學ばんとして能はずと言ふ乎。さらば、一日得る所僅かに六片寒さを凌ぐ。楷火の外に燈火なく、一片をペンと紙との爲めに割かば、忽ち空腹を感ぜざるべからざる境遇に在りて、之を學び得たるコベットあることを記憶せよ。公等書を買ふの錢なしと言ふ乎。さらばニュートンの『プリンシピア』を借りて、之を寫したるモリアあることを忘るべからず。九々表なきに苦しむ者は、空前絶後の貧少年より身を起して、世界に名聲を轟かしたるピッドルが豆と石彈と彈丸囊とに依りて、百萬までの九々を習得したる事蹟に鑑みて可なり。音樂に苦しむ者は、蒸氣機關の發明者たるワットが、音樂の耳を有せざるに樂器を作らんと志を起して、音樂を獨修したるを記憶せよ。

由來世界の大事業を成就するものは、自助なり。資力なきを嘆じ、徒らに天の落つるを待ちて雲雀を捕へんと期するが故に、意氣を沮喪し、志を挫く青年豈に尠なしとせんや。然れども、成功は努力と忍耐との子なり。成功は巧言令色を以て、聲の塵を拂はるゝ者にあらず。代價を拂つて始めて我が物とすべきものなり。

常に境遇に反せる行動を執りつゝ、蛟龍池中のものにあらず、時を得ば應に大に雄飛す可し、と大言壯語する青年は、毫も信用するに足らず。

智識を得んと欲せば、之が爲めに骨折らざるべからず。食を得んと欲せば、之が爲めに勞せざるべからず。快樂を得んと欲せば、之が爲めに働かざるべからず。勞苦は原則なり。苦は樂の種子なり。蜜蜂々々と連呼するのみにては、蜜蜂は來らず。語に曰く「稼ぐに追付く貧乏なし」と、誰か其の眞理を疑はんや。

吾人の有せざるものゝ爲めに努力する間に、各人の長所は發達し、吾人の大事業は成就す。

書籍と議論とは、公等を覺醒し、感奮せしめ、未だ發せざるに當りて、能く邪路に入らざるやう、公等の爲めに道標の用を爲すべけんも、道の上に、一步公等を動かすこと能はざるなり。行程を終らしむるものは、唯公等の雙脚あるのみ。

ダニエル・ワイズ氏の唱道する所に曰く、「智は人間の矜なり、修養を積める才能ほど、生産的なるものなし。財産、門閥及び官職等は、其の所有者に表面の敬意



を表せしむるも、衷心より敬意を拂はしむることなし、又拂はしむる能はず、人をして眞率なる敬意を表せしむるものは、偉大にして、高尚なる靈を有せる人、即ち學識と徳性とを具備せる人に限る。

希望、目的及び覺悟の虹の色の如く鮮かなりし優秀の青年が、多くは豫期に反して志を得ざるは、抑も何が故ぞや、其の説明は極めて簡單明瞭なり、曰く、大成功の代價たる修養の苦を避くるが故なり、如何なる特種の天才を以て、自然は、其の寵兒に賦與するとも、勤勉努力にあらざれば、何人も其の才を用ふるのと能はざるなり。

汪洋たる大河は、其の源を潺々たる澗流に發するが如く、英傑の士の廣大無邊なる感化は、十年窓下人の訪ふなく、自修に刻苦勵精せし當時に始まる。九層の臺も累土より起る。自修てふ眼に見えざる泉は、總ての偉大なる成功の根本なり。

さらば、青年若し夫の地中に埋めたる黄金を探せし人の先蹤を追うて、智識を掘出すの愚を演ぜざらんと欲せば、須らく卓絶てふ一切の夢を追拂ふ可し。



欠

MISSING



明治四十一年二月廿六日印刷  
明治四十一年三月一日發行

成功論上

定價金五十錢

著作者

竹村修

發行者

東京府下北豐島郡巢鴨町大字上  
駒込十九番地

山縣文夫

印刷者

東京市牛込區市ヶ谷加賀町  
一丁目十二番地

青木弘

印刷所

東京市牛込區市ヶ谷加賀町  
一丁目十二番地

東京巢鴨郵便區上駒込山縣邸内

發行所

內外出版協會  
電話 下谷四百三十八番  
振替貯金口座第三五五番





# “BOY WANTED” NIXON WATERMAN

ニクソン、ウォターマン原著 文學士 村上池洲譯述  
**社會の要する少年** 定價參拾五錢 郵稅四錢

- 第一章 奮起 人生の組合——着手の時期——先見——男兒入用——精神の力——能と不能——獨立自助之人——貨物を交付せよ。
- 第二章 天才 天才の定義——靈感と汗——固著せよ——天才と忍耐——勉めよ——忍耐の實例——成功の秘訣。
- 第三章 機會 好機會とは何ぞや——エーブラ——自己に頼れ——自我と吾——目前の一瞬間——只今此處に——貧賤と成功——不屈不撓。
- 第四章 勞力の過不及 早熟——過ぎたるは猶ほ及ばざるが如し——健康の價値——人物養成法——勞力の價値——成功を得る方法——研磨されたる機智——堅實なる勞動者。
- 第五章 餘暇 時の濫費——因循癖——一日一時間の事業——只一分間——餘暇を善用する必要——今之を爲せ。
- 第六章 快活 笑の價値——總てを知るは總てを寛恕することなり——希望と氣力——困難の療法——カライルの快活論——歌を詠ふ人——成功の障礙としての悲觀主義——笑と職業——有益なる徳性——厭世家に對する公開狀。
- 第七章 空想と實行 實行主義——ハンク——ストリーターの腦の波——自重——底無し路——機會と勤勉——向ふ側の草。
- 第八章 成功 當世の男兒——全力と成功——富裕となる事——思考と實行——人生の眞目的——慈母の夢。

ニクソン・ウォターマン氏の原著にして、重に社會上に於ける未來の利用者たる少年を訓戒したる書籍である。日次を八章に頒ち、第一章の奮起には、人生の組合から説いて少年の進むべき向上路を教へ、第二章天才には其の定義を明確に説明し、第三章の機會にはエーブラ・ハンク等の赤貧の中に不拔の決心を以て勉學したる好績を引用し、第四章勞力の過不及には健康の價値より堅實なる勞動者を論じ、其の他第五章の餘暇、第六章の快活、第七章の空想と實行、第八章の成功等何れもみな遺憾なく説破して居る。欄外には詩人文學者の吐露した警句訓言を掲記して大に少年の指導に力め、寫眞版にはリンコンの苦學、銅像、筆蹟、及び彼れの生れた丸太小舎、セームス・ワット其他を挿入して居る。加ふるに譯文輕妙、學生の讀物としては蓋し出色と云ふべき價値があらう。(新公論)

「ボーイ、ウナチツド」と云へる書を譯したるものにて、巻頭にリンコンの丸木小屋、讀書等の畫を載せたるを見て其の精神を見るべし。奮起、天才、機會、餘暇、快活等の章に分てり、内外出版協會の譯出せる青年のために書かれたる書籍のうち中學程度に讀ましむるには最も適當なるもの、一なるべし。譯文暢達、表裏も趣味ありて佳し。(開拓者)

原序によりて本書著作の由來は、有らゆる階級あらゆる年齢の人より青年の心中に自助の精神を鼓吹する爲めに最も適當せる作品と求められて起草されたものなるを知る。説く所は奮起、天才、機會、勞力の過不及、餘暇、快活、空想と實行、成功の八章に分ちて一句一節悉く少年の爲めに教訓ならざるなく、讀頭に前賢古哲の格言を掲げて相對照したる所一層本書の光輝を大ならしむるを感ず。(貿易新報)

會協版出外内 內郵縣山井染區便郵鳴巢京東 (五五三第號番座口金貯替振) 元版

# 實業に就かんとする青年

米國成功雜誌主筆 マーデン原著 文學士 竹村 修譯述  
 全三册完成 美裝合本發賣 大五百二十頁 定價金壹圓 郵稅拾錢

著者は「ブッシング、ツィ、ゼ、フロント」の著者にして、又雜誌「サクセス」の主筆と知られ、常に米國青年の指導者を以て任じ、向上發展の主義を唱道し、堅忍奮闘の活動的生活を鼓吹す。所説穩健にして實際的、思想高遠にして健全なり。本書は實業に就かんとする青年の爲めに、紛糾錯綜せる人生諸種の問題を解釋し、處世の要訣を説く、青年は常に一本を座右に備ふべき書なり。譯者は文學士竹村修氏、内外出版協會が常に歐米の有益なる書籍に注目し、文筆に達せる士に之を囑して我が讀者界に輸入しつゝある勞は宜しく感謝すべき所とす。……太平洋

有名なる米國成功雜誌の主筆マーデン氏の原著にして、青年が如何にして實業に就かんとするかを煩悶し、疑懼し、逡巡する等、其前途に横はるあらゆる困難の問題を最も光明的に解決し、其方針を親切的確に説明したる者。必しも實業家たらんとする青年の爲のみにあらざるべく、吾人は活動主義のパンとして一般の世上青年に進むるものなり。……報知新聞

「ブッシング、ツィ、ゼ、フロント」の著者として青年界に知られ渡るマーデン氏の教訓なり。説く所十九章、微細に青年の危機を指摘し、手を取らん許り親切に立身の道か教へたるもの、譯文も流暢なり。實業に志す青年の三誦すべきもの。……國民新聞

「地方青年の登龍門」外十八章、何れも人生必須の教訓にして處世の要訣と云ふべく、的確痛切の議論は以て現日本の青年を訓戒するに足るべし。原書は是れ米國青年の指導者たるマーデン氏の著なり、氏が常に唱ふる所の向上發展主義は又本書に現はれて吾人を利する所多大なり。……大阪朝日新聞

會協版出外内 內郵縣山井染區便郵鳴巢京東 (五五三第號番座口金貯替振) 元版







# 吉川潤二郎 述 人生の行路

正編 全四冊 綴入文字金 綴入文字金 綴入文字金 綴入文字金  
 定價 金一圓 金一圓 金一圓 金一圓  
 小冊包料 十錢 十錢 十錢 十錢

人生の行路 人生の行路 人生の行路 人生の行路  
 幼少時代の行路 少年時代の行路 青年時代の行路 成人時代の行路  
 幼少時代の行路 少年時代の行路 青年時代の行路 成人時代の行路  
 幼少時代の行路 少年時代の行路 青年時代の行路 成人時代の行路  
 幼少時代の行路 少年時代の行路 青年時代の行路 成人時代の行路

「人生の行路」一たび世に出て、讀書社會に至  
 大の影響を與うるや、新刊圖書の題名に「人生」  
 の二字を冠して現はるゝもの頓に増加して今に  
 及べり、本書は實に我が出版界に一新潮流を作  
 れる名著なり。本書通卷八十四章、紙數六百頁  
 に近く、吾人の一生中に生起すべきあらゆる問  
 題は掲げ盡され、掲げられたる問題は個々に皆  
 説き盡されたり。其の説くや、すべて是れ過去  
 及び現在の、最も價值ある多數大家の智識、教  
 訓、實驗、實例を基とし、著者ヘト氏玲瓏の  
 頭腦と非凡の筆力とを以て、全卷の文字をして  
 生氣充ち活趣溢るゝに至らしむ。蓋し之を讀む  
 に楽しく、而も讀みて無限の裨益あらしめむと  
 するもの著者の主意なり。實に是れ萬人處世の  
 一大教科書、人生を一の學校とすれば、其の初  
 級より最終級まで適用せらるべき一大教科書に  
 して、品性の陶冶、徳性の涵養、勇氣の養成、  
 智識の蓄積、其他人生最上の幸福を享受せむと  
 欲するに於て必要なる諸件、本書に就いて學び  
 得ざるは無し。近頃本書の新購讀者倍々多から  
 んとするは偶然ならずと信するなり。

東 京 振 替 貯 金 口 座 第 三 百 五 十 五 番 內 山 縣 井 三 郎 版 元 協 會 出 外 內

述譯修村竹 士學文 著原ト、エウヒ

# 人格は如何に養成すべきか

定價 金參拾五錢 郵稅 四錢

本書は「ブック・ラウン」に於ける最良圖書百卷の  
 一に撰拔せられたる有名の書なり。人格の養成の  
 ことに關する著述世に多しと雖も、本書の如く  
 是れ固より其故ありて、本書の内容は、彼の善良、剛己の子の  
 高尚にして誠實優雅なる士君子の言を以て之を蔽へば一個の紳士  
 と成らんことを希望して言説せるものなればなり。彼の望む所は、其の子をして世の所謂成功  
 家とならしむるに在りき。勿論彼は活動の  
 人にあらずして、一個品性の人  
 も、品性、人格、志操の  
 もの我が子なり、愛兒の爲めに力を盡して其の善  
 誠實賢明なる紳士が、愛兒の爲めに力を盡して其の善  
 良豊富なる思想を吐露せるの書、而して其書は世界  
 一に選本書の眞價、人々一讀して之を判せよ。

原書は曾て世界最良圖書百卷の一に選ばせられたる名著(中略)譯文極めて平易簡明能く原著の内容を傳へ、全  
 書二百餘頁悉く金玉の文字ならざるなし。品性の修養に志ある青年の、是非共一讀すべき良書なり。(毎日電報)

(前略)其の人格を構成すべき諸種の徳行より、娛樂、衣服、男女の關係といふが如き事に至るまで、細大漏さ  
 ず、周到親切説いて詳々倦まざる所、原著者が自身の兒の爲めに書きたりとの事の然こそ首肯せらるゝもの  
 あり。余輩は内外出版協會より此種の著譯の續々發行せらるゝを多とし、特に此書を青年諸君に推薦す。(新  
 人)

原書は Notes for Boys と云ひ英國の An old boy と自稱する一名士が、其子息を名門學理の成功家たらしめ  
 ず、英人の所謂紳士即ち品性の人たらしめんとて、其子の訓誡となさんが爲めに執筆せしものにして、暗示的  
 に拜金主義の賤しむべきを教へたり。物質的榮光に眩惑せる青年は一讀して覺醒する所あるべし。(東京毎日新聞)

「人生の行路」一たび世に出て、讀書社會に至  
 大の影響を與うるや、新刊圖書の題名に「人生」  
 の二字を冠して現はるゝもの頓に増加して今に  
 及べり、本書は實に我が出版界に一新潮流を作  
 れる名著なり。本書通卷八十四章、紙數六百頁  
 に近く、吾人の一生中に生起すべきあらゆる問  
 題は掲げ盡され、掲げられたる問題は個々に皆  
 説き盡されたり。其の説くや、すべて是れ過去  
 及び現在の、最も價值ある多數大家の智識、教  
 訓、實驗、實例を基とし、著者ヘト氏玲瓏の  
 頭腦と非凡の筆力とを以て、全卷の文字をして  
 生氣充ち活趣溢るゝに至らしむ。蓋し之を讀む  
 に楽しく、而も讀みて無限の裨益あらしめむと  
 するもの著者の主意なり。實に是れ萬人處世の  
 一大教科書、人生を一の學校とすれば、其の初  
 級より最終級まで適用せらるべき一大教科書に  
 して、品性の陶冶、徳性の涵養、勇氣の養成、  
 智識の蓄積、其他人生最上の幸福を享受せむと  
 欲するに於て必要なる諸件、本書に就いて學び  
 得ざるは無し。近頃本書の新購讀者倍々多から  
 んとするは偶然ならずと信するなり。

東 京 振 替 貯 金 口 座 第 三 百 五 十 五 番 內 山 縣 井 三 郎 版 元 協 會 出 外 內



# 成 功 の 基 礎

定價金貳拾五錢郵稅四錢

此書は米國成功雜誌主筆マーデン氏が親しく彼の國に於ける最大成功者の多くを訪問して聴取したる成功談を選輯せるもの。談者は固より皆一世の豪傑にして、聽者また尋常記者にあらず。見よ其の精彩奕々たり趣味津々たる談話録を。總て是れ彼の國に於て、實際、大望を抱きて逆境に奮闘せる多くの青年に對つて一生の轉機ターニングポイントを指摘し。又懶惰無爲なる多くの男女をして社會に何事をか爲さむと決心せしむる動機となりたるものなり。我が國現時の青年にして一たび之を緝かんか、彼等の或る者が動もすれば發せんとする君は機會を有せず」との歎聲を打消すに足るべき此等の實歴談に激勵せられて、感奮興起、進んで世波の澎湃に投じて己が手腕を試さんと志す者の續々現はるべきを信ず。畢竟するに斯の如き有力なる具體的説明は、讀者を鼓舞すること百千の空論的獎勵に勝れり。

內 會 協 版 出 外 内

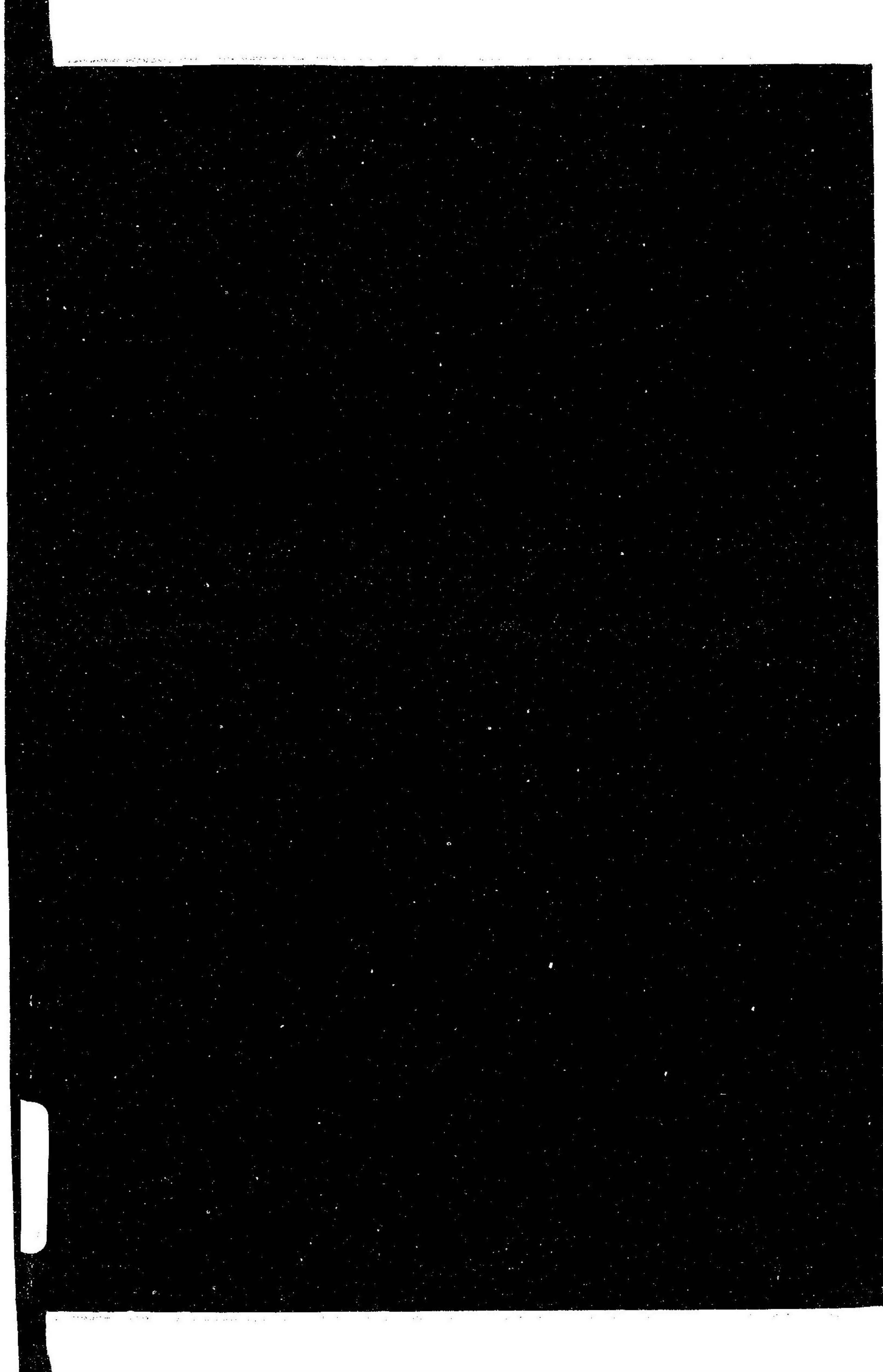
東 京 貯 蓄 金 庫 口 座 第 三 百 五 十 五 番 內 郵 縣 山 井 染 區 便 郵 鳴 巢 京 東

元 版



18  
508







18

805

010712-001-6

18-805

成功論

マーデン/著

M41

AAE-2195





9.5.21